

# OXIDE

株式会社オキサイド

## 第三者割当による行使価額修正条項付 第8回新株予約権の発行に関する 補足説明資料

(6521 東証グロース)

2024年8月2日

# 事業概要

■ 当社は、単結晶・レーザのグローバルニッチトップカンパニーを目指し、半導体・ヘルスケアに加えて、様々な市場に向けて事業展開をしています。

## 単結晶



## レーザ



### 半導体事業

半導体Siウエハ欠陥検査装置  
向け単結晶・レーザの製造



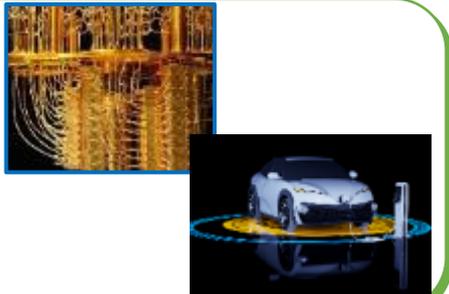
### ヘルスケア事業

がん診断用PET検査装置向け  
単結晶の製造



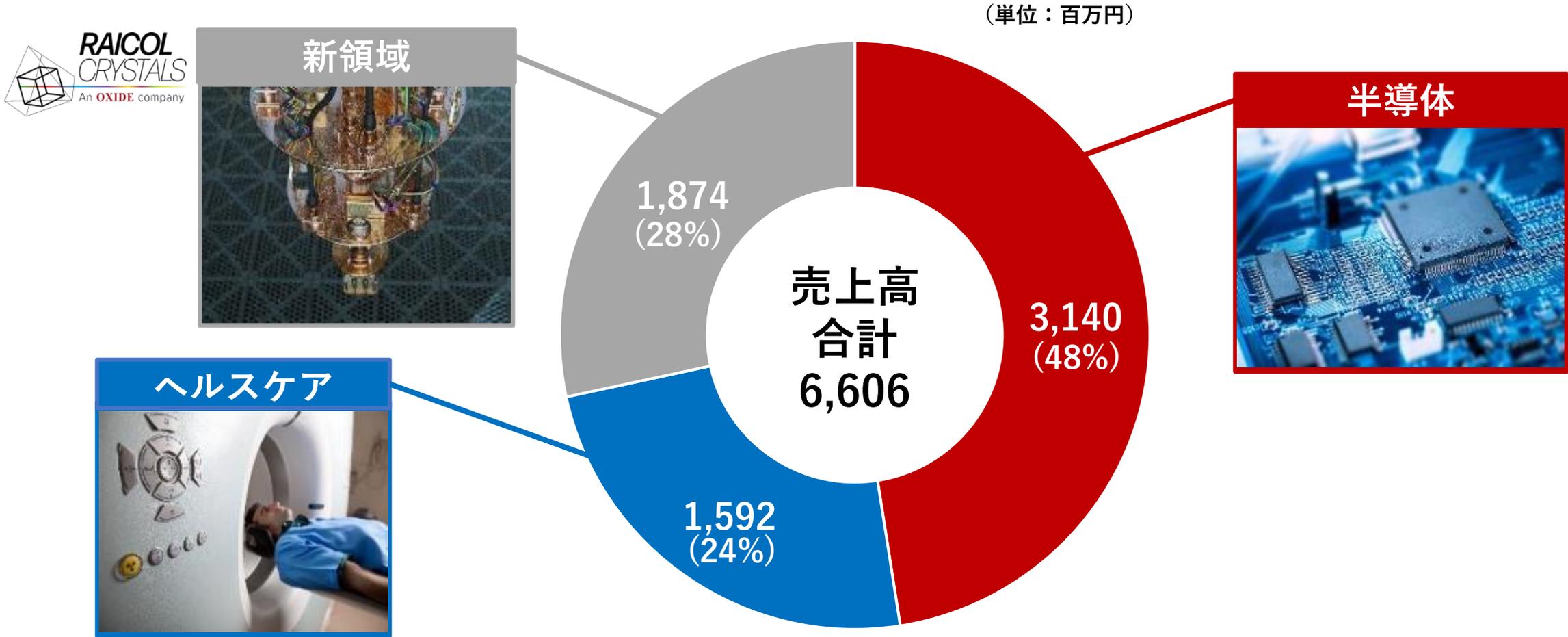
### 新領域事業

量子、パワー半導体、  
宇宙・防衛、エネルギー、  
美容など様々な分野へ展開



# 事業別売上高構成 2024年2月期

- 半導体事業が全社の売上を牽引しています。
- 2023年3月にRaicol社を子会社化したことにより、新領域事業の構成比が拡大しています。



# 本資金調達の目的

- グローバルニッチトップメーカーを目指し、更に事業開発を加速させるため、研究開発と設備投資を継続します。
- 財務体質強化のため、研究開発費と設備投資向けに調達した借入金の一部返済を行います。

	半導体	ヘルスケア	新領域
研究開発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レーザ製品ラインナップ 拡充と新用途開拓</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンチレーター 新単結晶開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワー半導体向け 溶液法SiCウエハ開発</li> <li>・量子分野単結晶・ モジュール開発</li> </ul>
設備投資	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メンテナンス 需要増加対応</li> <li>・レーザ製品増産対応</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワー半導体向け新材料 酸化ガリウム設備投資</li> </ul>
全社的 財務体質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究開発費と設備投資向けに調達した借入金の一部返済</li> <li>・自己資本比率向上</li> </ul>		

企業価値向上・株主価値向上

# 【半導体】ウエハ検査装置向け深紫外レーザー

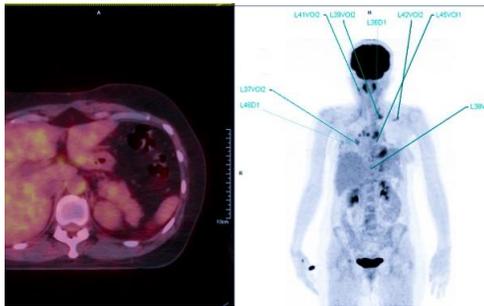
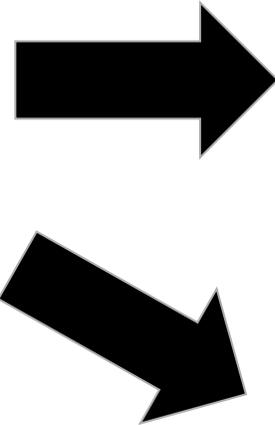
- 半導体プロセスノード22nm以下のハイエンド半導体向け深紫外レーザーの需要が拡大しています。
- さらなる市場シェア拡大に向け、短波長かつ高出力の深紫外レーザー製品で継続的な次世代製品開発が必要です。
- レーザ製品の累積出荷数量の増加に伴い、メンテナンス需要増加も見込まれます。



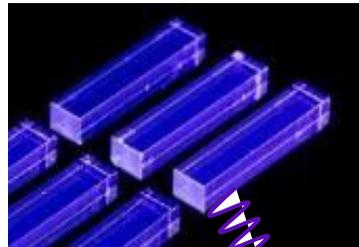
# 【ヘルスケア】PET装置向けシンチレータ単結晶

■PET装置向けシンチレータ単結晶の研究開発に、継続的に取り組んでおります。

当社シンチレータ単結晶  
世界シェア~20%<sup>(1)</sup>



PET診断画像



放射線



# 【新領域】事業ポートフォリオ

- Raicol社を子会社化したことにより、「宇宙・防衛」「エネルギー」「美容」分野が加わりました。
- 「パワー半導体」、「量子」等の分野を成長市場として研究開発に取り組んでおります。

## 製品販売中の市場



宇宙・防衛

Raicol



美容

Raicol

## 中長期的な市場



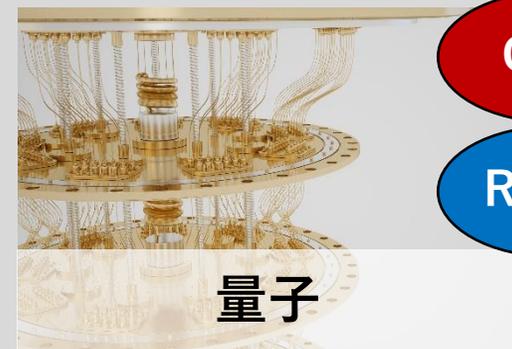
パワー半導体

OXD



LiDAR, 5G

OXD



量子

OXD

Raicol

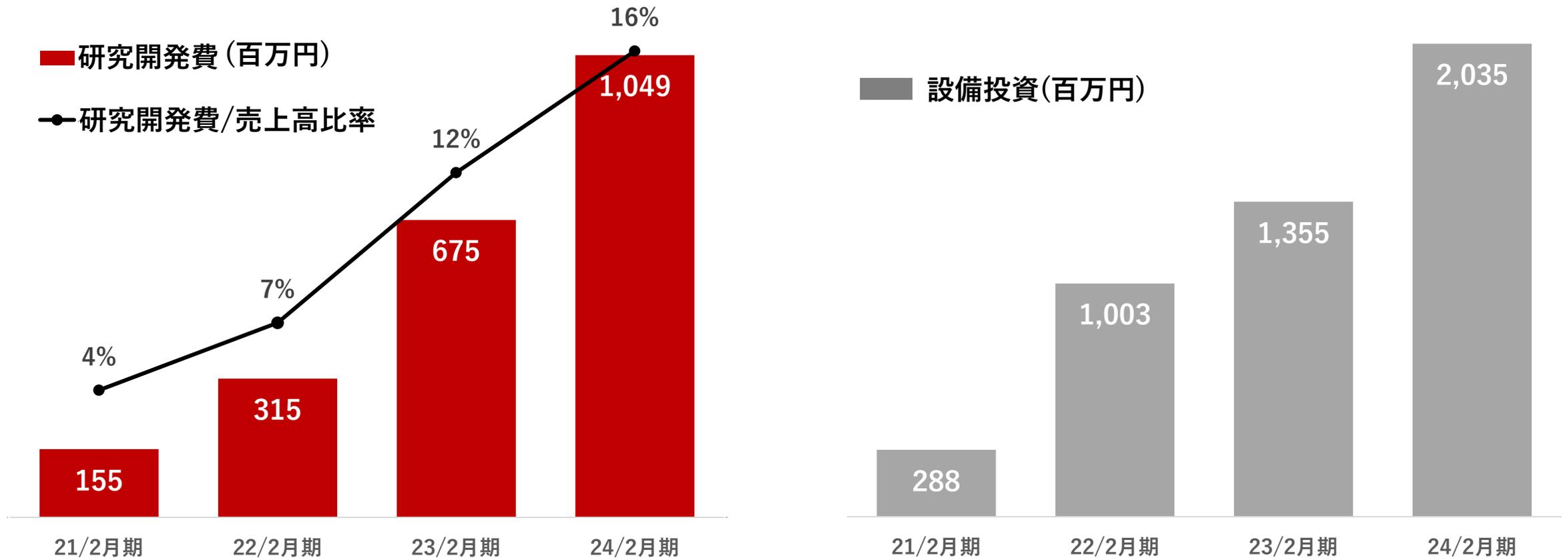


エネルギー

Raicol

# 【研究開発費】 【設備投資】 の推移

- パワー半導体分野、量子分野、半導体分野光学単結晶と深紫外レーザー製品、ヘルスケア分野シンチレーター単結晶等における研究開発と設備投資を実施してまいりました。
- 今後もさらなる事業成長のため、研究開発と設備投資を継続してまいります。



# 調達資金の具体的な用途

- 資金用途は①研究開発費用、②増産対応や研究開発に関連する設備投資費用、③研究開発費と設備投資向けに調達した借入金返済資金であり、調達資金の充当の順番は②→①→③を想定しております。
- 本新株予約権の発行による資金調達を通じて、半導体事業を中心とする既存事業の継続的な成長、溶液法SiCウエハを中心としたパワー半導体事業、量子分野の研究開発を促進してまいります。

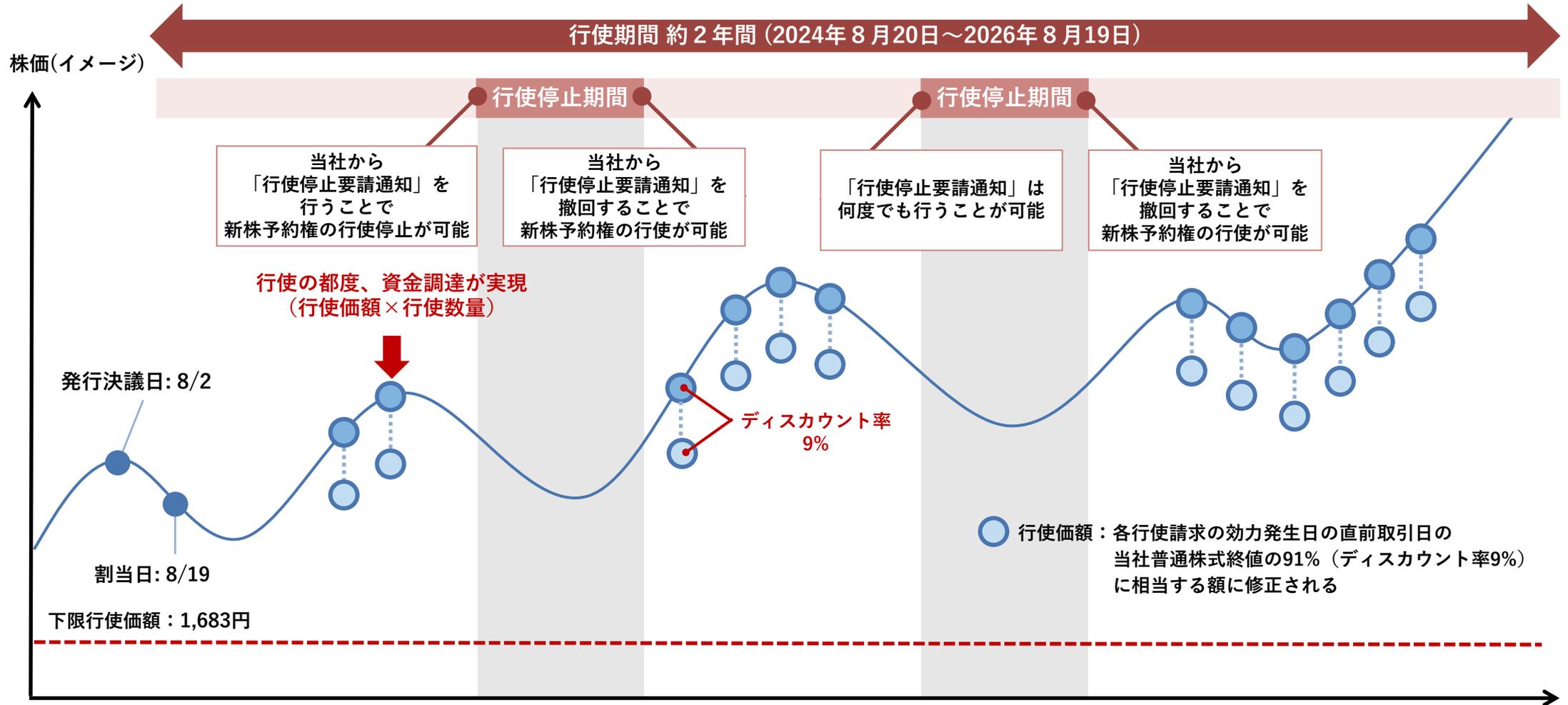
	資金用途	資金調達の各資金用途の内訳	金額(百万円)	支出予定時期
①	パワー半導体分野、量子分野、次世代単結晶とレーザを中心とする、中長期的な成長を牽引するための研究開発費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワー半導体分野における、溶液法SiCウエハの量産開発に向けた研究開発費：約496百万円</li> <li>量子事業における光学部品とモジュール製品開発加速のための実用実験等の研究開発費：約575百万円</li> <li>単結晶とレーザ製品における、短波長化又は高出力化に向けた研究開発費：約1,203百万円</li> </ul>	2,274	2024年8月 ～2026年2月
②	半導体事業レーザ製品メンテナンス増産対応、その他研究開発に関連する設備投資費用	<ul style="list-style-type: none"> <li>半導体事業における、レーザ製品のメンテナンス増加に対応するための当社第4工場の第2期工事への投資：約508百万円</li> <li>深紫外レーザ製品と単結晶における次世代製品の研究開発に関連する設備投資等：約291百万円</li> </ul>	799	2024年8月 ～2025年5月
③	研究開発費と設備投資向けに調達した借入金の返済資金	<ul style="list-style-type: none"> <li>パワー半導体分野、量子分野、半導体分野光学単結晶と深紫外レーザ製品、ヘルスケア分野シンチレーター単結晶等における研究開発費と設備投資向けに調達した借入金の返済資金</li> </ul>	3,108	2024年8月 ～2026年8月

# 本新株予約権の概要

		第8回新株予約権
発行方法		大和証券株式会社に対する第三者割当
発行概要	行使可能期間	2024年8月20日～2026年8月19日
	想定調達額	6,181百万円(差引手取概算額)
	新株予約権個数	22,000個
	目的株式数	2,200,000株(対発行済株式数19.99%※)
行使価額	当初行使価額	2,804円
	行使価額の修正	各行使請求の効力発生日の直前取引日の当社普通株式の終値の91%に相当する額
	上限行使価額	なし
	下限行使価額	1,683円
その他	付帯条項	行使停止条項 (当社の判断で新株予約権を行使できない期間を指定)
	取得条項	当社の判断で残存する新株予約権の取得・消却が可能
	譲渡制限	当社取締役会の事前の承認がない限り、 本新株予約権を第三者に譲渡することはできない

※ 対発行済株式数は2024年5月31日時点の発行済株式総数11,005,525株を基準に算出。

# 本新株予約権の行使イメージ



※ 上記の株価推移のグラフはイメージであり、当社の株価推移の予想ではなく、当社株価が上記の通りに推移することを約束するものではありません。  
 新株予約権の行使請求は、割当予定先 (大和証券) が市場動向等を踏まえた上で行うものであり、必ずしも上記イメージ通りに行使請求が行われるものではありません。

# 本新株予約権に関するQ&A

No	質問	回答
1	新株予約権とは何ですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>新株予約権とは、発行会社に対してそれを行行使することにより、当該発行会社の株式の交付を受けることができる権利です。</li> <li>新株予約権の割当予定先である大和証券が当該権利を行行使することで、当社は行使価額相当の金銭の払込を受け、大和証券に当社普通株式を交付します。これにより当社は資金調達を行います。</li> </ul>
2	資金調達方法の概要は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>本新株予約権を大和証券に割当て、同社が当該新株予約権を行行使することで、資金が調達されるものです。行使価額は、行使請求の直前取引日の当社普通株式終値の91%に相当する金額に修正されます。</li> <li>本新株予約権には下限行使価額が設定されています。下限行使価額よりも低い行使価額で本新株予約権の行使がされることはありません。</li> </ul>
3	新株予約権を選択した理由（メリット）は何ですか？	<ol style="list-style-type: none"> <li>行使価額が各行使請求日における直前取引日の終値の91%に相当する金額に修正され、上限行使価額の設定がないため株価上昇時には調達金額が増大するというメリットを享受できること</li> <li>行使停止期間の設定を通じて当社による希薄化のコントロールが一定程度可能であること</li> <li>資金調達が不要になった場合は、残存する新株予約権を取得できること</li> </ol>
4	デメリットは何ですか？	<ol style="list-style-type: none"> <li>割当予定先による権利行使の進捗に応じて、行使完了までには一定の期間が必要となること</li> <li>株価が下落した場合、株価に連動して行使時の払込価額が下方に修正されるため、実際の調達額が想定調達額を下回る可能性があること</li> <li>株価が下限行使価額を下回って推移した場合等、行使が進まず資金調達ができない可能性があること</li> <li>割当予定先が権利行使請求により取得した株式を売却した場合には、株価下落の要因となりえること</li> </ol>
5	調達予定金額はいくらですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>発行諸費用を控除した手取概算額の合計は6,181百万円を想定しております。</li> <li>但し、この金額は、当初行使価額で全ての新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額です。行使の進捗状況や行使価額の修正等に応じて増減いたします。</li> </ul>

# 本新株予約権に関するQ&A

No	質問	回答
6	希薄化の規模はどの程度ですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>本新株予約権の目的である普通株式数は2,200,000株で一定であり、発行済株式総数（2024年5月31日時点）をベースとした最大希薄化率は19.99%です。</li> </ul>
7	資金使途は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>①パワー半導体分野、量子分野、次世代単結晶とレーザを中心とする、中長期的な成長を牽引するための研究開発費用、②半導体事業レーザ製品メンテナンス増産対応、その他研究開発に関連する設備投資費用、③研究開発費と設備投資向けに調達した借入金の返済資金です。</li> <li>資金使途の詳細につきましては、本資料9ページをご確認ください。</li> </ul>
8	なぜ公募増資や銀行借入等ではなく新株予約権を選択したのですか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の資金調達手法と比較検討を行った結果、公募増資は相当の準備期間を要し、即時に希薄化を生じること、借入等と異なり財務健全性を保ったまま、機動的な資金調達が可能であること、かつ行使停止条項を採用することで希薄化についても一定程度コントロールが可能であること等を理由として、本資金調達方法を選択しました。</li> </ul>
9	今期の業績に与える影響はありますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の資金調達による2025年2月期当社業績に与える影響は、軽微であります。</li> </ul>
10	貸株・空売り等は行われますか？	<ul style="list-style-type: none"> <li>本新株予約権の権利行使により取得する当社株式の数量内で行う売付け等以外の本件に関わる空売りを目的として、当社株式の借株は行わないことを、割当予定先である大和証券から確認しております。</li> </ul>

# OXIDE

<https://www.opt-oxide.com>

## ディスクレイマー

本資料は、当社の第三者割当による行使価額修正条項付第8回新株予約権の発行に関する情報提供を目的としたものであり、一切の投資勧誘又はそれに類似する行為を目的とするものではありません。

本資料において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本資料に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。

本資料の内容に関する一切の権利は当社に帰属しています。複写及び無断転載はご遠慮ください。

なお、投資を行う際には、必ず投資家ご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。